

# 2月 日本共産党県議団 県議会ニュース です

**両角友成**議員の2月県議会での一般質問の要旨をお知らせします。  
一般質問、答弁の全文はホームページの**議会の様子**からご覧いただけます。



## ＊ ＊ 公立・公的病院の再編・統合の動きについて ＊ ＊

**両角** 厚労省が昨年、再編・統合の対象になる病院として県内の15病院を公表した。病院関係者から「うちの病院は、なくてもいいと言われているようだ」、住民からは病床（ベッド）の削減につながると不安の声が出ている。住民や医療現場、地方自治体の声を置き去りにして、再編・統合を無理に進めるのではなく、安全・安心の医療体制の確立へ、県の対応は。

**健康福祉部長** 持続可能な医療体制の構築は、押し付けでなく地域合意によって成し遂げるもの。県は、医療現場や行政、地域住民の代表などで構成する地域医療構想調整会議での活発な議論を支援している。

**両角** 厚労省の再編・統合リストの撤回を求めるべき。病床機能の再編統合などの動きは、強引に進める国と同じ手法を取らないでほしい。

**知事** 厚労省には地域の実情を踏まえた対応をお願いしている。撤回する・しないではなく、我々からしっかり意見を言わなければと考えている。

## ＊ ＊ 教職員の長時間労働の是正について ＊ ＊

**両角** 教育現場への1年単位の変形労働時間制の導入は、教職員の長時間労働の解消という課題を解決するどころか、平日の長時間労働を固定化するのではないか。学校現場では、休憩時間が取れない、昼食は5分で食べ、早朝の出勤や深夜の退勤などで子どもの日記のコメントを書く時間もないなど深刻。教員の定数増、行政研修の削減、学校閉庁日の実施など抜本的な対策が必要だが。

**教育長** 制度導入には、勤務時間の上限の遵守など長時間勤務を抑制する条件がクリアされて可能になる。学校における働き方改革を着実に進めることが必要だと考えている。

**両角** 文科省の教員勤務実態調査では残業時間オーバーの教員は8割を超え、長野県教組の調査では78時間40分と過労死ラインに迫っている。こんな状況でも国の方針どおり制度導入を目指すのか。

**教育長** 学校の働き方改革では既に様々な施策を実施しており、喫緊の課題と認識している。今後の省令や指針も注視し制度導入の適否を慎重に検討する。

### ＊質問を終えて＊

国は、医療費を抑制するために病院の再編・統合を強引に進める手法をとってきました。しかし拡大を続ける新型コロナウイルス感染症をみても「最後の砦」となる地域の病院を残さなければと強く感じています。

